

# 小学3年 社会 「火事からくらしを守る」

ねらい

火事が起きたときの通信指令室の役割や、関係機関との協力体制について本を使って調べ、理解することができる。

## 学習展開（8時間）

- ①教科書のイラストを見ながら、火事が起きたときの様子について気づいたことを話し合う。
- ②③学校の中にある「消火栓」「消火器」「非常口」「救助袋」を探してタブレットにマップを作り、置いてある位置や役割について気づいたことを話し合う。
- ④⑤⑥自分の課題を本で調べ、タブレット(ミライシード)にまとめる。  
課題1「119のあと誰がどこに連絡しているのかな」  
課題2「消防の人はどんな1日を過ごしているのかな」  
課題3「火を消すときにどんな服を着るのかな」
- ⑦消防署見学に行く。
- ⑧本で調べたことや、見学に行き分かったことをまとめる。



## 指導のポイント

- ・火事の様子を見せたり、自分たちが消防士だったらどうするかを児童に問い返したりすることで「119は消防署にはつながらないの?」「夜中寝てる時はどうするの?」「いつもの服のままだと危険だな」という疑問を引き出し、調べたいという意欲を持たせる。
- ・ミライシードに課題を3つ用意し、どれから調べるかを自己決定させ、板書にネームで位置付けた。同じ課題に取り組んでいる子同士で4人班を作り、調べながら対話できるように班の形で授業を行った。
- ・調べたいという意欲を持続できるようにするために、本を2人で1冊使える量を用意してもらい、教師側でさらに資料を予備で用意することで、何もやることがない時間を減らすようにした。

## 学校図書館との関わり

- ・学校司書と相談し、消防に関わる本を20冊近く用意してもらった。
- ・本で調べるときに課題に関係がないページで戸惑うことがないようにするために、目次の見方や、どのようなページを見ればよいのかを児童に指導してもらった。
- ・本から何を読み取ればいいのか分からない児童にポイントとなる部分をこえかけしてもらった。